

近現代美術に関する総合的研究 (①美02-08-3/5)

目 的

多様化する現代美術の動向の調査研究を含め、日本近代美術の研究資料のあり方、研究の手法の開発、研究成果の公開の仕方を研究し、文化財行政に寄与することを目的としている。そのため、具体的には、第1にこれまで未公開の基礎資料の収集整理の上、データ化等の公開にむけた調査研究を行う。第2に資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

1. 未公開資料の収集整理とデータ化にむけた調査研究としては以下を行う。

本年度は、下記の4件の調査研究を行う。第1に、黒田宛フランス語書簡の再調査を行う。第2に2006(平成18)年2月、および2007(平成19)年10月に黒田清輝夫人である黒田照子の御遺族である金子家から寄贈を受けた黒田清輝関係写真等の資料に関する調査を進め、保存公開に向けて準備を行う。第3に、笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料のうち、作家別資料のデータ化を進める。第4に、既刊の『日本美術年鑑』のデジタルデータを校正し、ウェブ上に公開する準備を進める。

2. 資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開としては、本年度は、研究論文集『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』刊行のために、他機関の研究者とともに掲載論文の内容の検討、校正作業を行い、刊行する。また、近現代美術に関する個々のテーマに基づいた研究成果を積極的に公開する。

成 果

1. 未公開資料の収集整理とデータ化に向けた調査研究では以下の4件を行うことができた。

- (1) 黒田宛フランス語書簡の翻刻と和訳作業を進めた。
- (2) 平成18年2月、および19年10月に黒田清輝夫人のご遺族である金子家から寄贈を受けた黒田清輝関係写真等の資料208点を整理し、画像をデータ化し、保存公開に向けて準備を進めた。また、それらの資料に関する調査を進めた。その成果の一部を黒田記念館で「写された黒田清輝Ⅱ」として展示公開した。
- (3) 笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理を進め、画像資料のデジタル化に着手した。
- (4) 既刊の『日本美術年鑑』の文献データを、ウェブ上で公開するため作業を行った。その成果として11月に1936年から刊行された『日本美術年鑑』所載文献データをウェブ上に公開することができた。

2. 資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開促進としては、以下を行った。

- (1) 『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』の刊行に向け、編集、校正作業を完了した。
- (2) 近現代研究協議として、以下を行った。

黒田記念館蔵の満谷国四郎の素描作品を、角田拓朗(神奈川県立歴史博物館)、廣瀬就久(岡山県立美術館)とともに調査した。その調査に基づく知見については、5月7日に研究協議会を開催し、検討協議した。(なお同研究協議会については、外部からの専門家をコメンテーターとして招き、「資料学的研究」として位置づけて開催したので「東アジアの美術に関する資料学的研究」の成果の項を参照されたい。)

2008(平成20)年7月23日 田中淳「有島生馬とフォトグラファー田中敏男」、高橋秀治(愛知県美術館)「藤雅三<<破れたズボン>>再発見報告」

2009(平成21)年2月25日 三上豊「アナログ編集者は、なぜデジタル編集についていけなくなったか—主に横浜トリエンナーレ08のカタログをめぐる」

論文等掲載数 2件

- ・塩谷純「菊池容斎—雅俗を越えて」『激動期の美術』 pp.34-60 ペリかん社 08.10、・山梨絵美子「渡辺豊次郎／豊洲—『画家』になれなかった『絵師』」『激動期の美術』 pp.195-219 ペリかん社 08.10

研究組織

○田中淳、塩谷純、山梨絵美子(以上、企画情報部)、三上豊(客員研究員)